

日本園芸療法学会 10 年の関わり

Relation of ten years to JHTA (Japanese Horticultural Therapy Association)

野尻 眞

医療法人白水会白川病院 理事長・院長

日本園芸療法学会 副理事長／専門認定登録園芸療法士

1. 白川病院の造園（パークホスピタル）40 年と 園芸療法 20 年の歴史

昭和 21 年 5 月白水館医院を父親が開業、その後、白川病院となる。当時の病棟廊下には壁かけ用一輪挿しがあり、いつも切り花が飾ってあった。病院裏手が山になっており、小学校時代から山へよく出入りして自生している松や楓の小さな苗を引き抜いてきて病院の庭に植えて遊んでいた。

高校時代、生物学を選考、世の中の生き物には動物と植物があり、ワトソン・クリックの二重螺旋構造で生物は誕生し生命を繋いでいることを学んだ。

昭和 50 年医師になり、昭和 56 年（1981 年）新病院を坂ノ東大土地内に 2000 坪に及ぶ土地を得て移築し、病院に庭があるのではなく、“公園の中にある病院 パークホスピタル”を目指してきた。104 床の建築当初から、建物に対し庭園をどのように配置するか一つ一つ丁寧にポンチ絵を図き、業者に作図させて公園化を図ってきた。

昭和 62 年回遊式リハビリ庭園“白水の森”を皮切りに天然記念物の桜 3 本を持つ桜並木、平成 12 年ハーブ庭園“薫風”，平成 25 年和風庭園“沢瀉流水庭園”を整備してきた。

その間、平成 7 年には作業療法士を、また平成 10 年には USA 認定の園芸療法士・理学療法士を投入し、デイケア“春夏秋冬”・療養病床で園芸療法を導入、園芸療法への学問的な取り組みを始めた。

平成 18 年 NPO 岐阜園芸福祉協会理事長となり、平成 19 年 第 6 回日本園芸福祉全国大会 in ぎふを開催。平成 23 年日本園芸療法学会副理事長となり、平成 24 年 第 5 回日本園芸療法学会 in 岐阜を主催した。

昭和 21 年 5 月：白水館医院開業、初代院長野尻元廣

昭和 31 年 5 月：白川病院に改称

昭和 56 年 12 月：新築・移転。敷地 2000 坪パークホスピタル”公園の中の病院

昭和 62 年：回遊式リハビリ庭園“白水の森”。天然記念物桜 3 本を含む桜並木造園

平成 7 年 4 月：作業療法士入職

平成 9 年：デイケア“春夏秋冬”でハーブを活用

平成 10 年 4 月：園芸療法士・理学療法士入職

平成 12 年：療養病床・デイケア 1 回／週 園芸療法

平成 13 年 5 月：創立 55 周年記念にユニバーサルデザイン”のハーブ庭園“薫風”

平成 15～17 年 6 月：淡路景観園芸学校の実習生 2 名／年受入れ。計 6 名実習

平成 16 年 8 月：特定 NPO 法人日本園芸福祉普及協会理事

平成 16 年 9 月：岐阜県園芸福祉サポーター受け入れ

平成 18 年 3 月：人間植物関係学会（現日本園芸療法学会）専門認定登録園芸療法士

平成 18 年 3 月：NPO 法人岐阜県園芸福祉協会理事長

平成 19 年 9 月：第 6 回日本園芸福祉全国大会 in ぎふ 大会長

平成 20 年 12 月：日本園芸療法学会設立 理事就任

平成 22 年 11 月：IWAD 環境福祉専門学校園芸療法コース実習生 1 名受入れ。

平成 23 年 3 月：日本園芸療法学会 副理事長

平成 24 年 10 月：第 5 回日本園芸療法学会 in 岐阜 大会長

平成 25 年 10 月：日本園芸療法学会資格認定委員会 委員長

平成 25 年 11 月：和風庭園“沢瀉流水庭園”

平成 27 年 6 月：花で彩る「清流の国ぎふ」県民会議委員

平成 28 年 5 月：医療法人 白水会 白川病院創立 70 周年

2. 岐阜県内での活動

①2007. 10. 5～7 に第 6 回園芸福祉全国大会 in ぎふを開催、大会長を務めた

大会のメインテーマは「人に優しい社会福祉医療のために」とし、園芸福祉の現状から未来の姿を俯瞰した。

基調講演は進士五十八前、東京農業大学学長「園芸福祉立国」を頂き、文科省・厚労省・農水省・国交省の 4 省の出席の下園芸福祉の未来を語るを事例提供に基づいて熱く語りあった。全国より実践活動

本稿は、日本園芸療法学会 10 周年に際し、理事の方に依頼したものである。

報告を6分科会・ポスターセッションで発表会場を含め総合討論をした。大会長として『なぜ、人は植物を見て美しさ・心のやすらぎ・癒しを覚えるのでしょうか』を講演した。

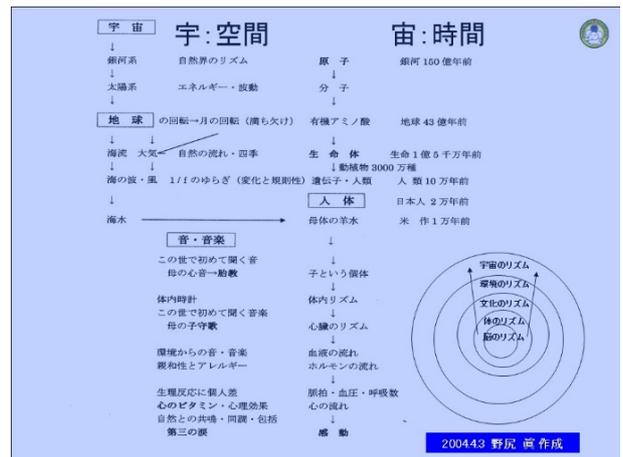
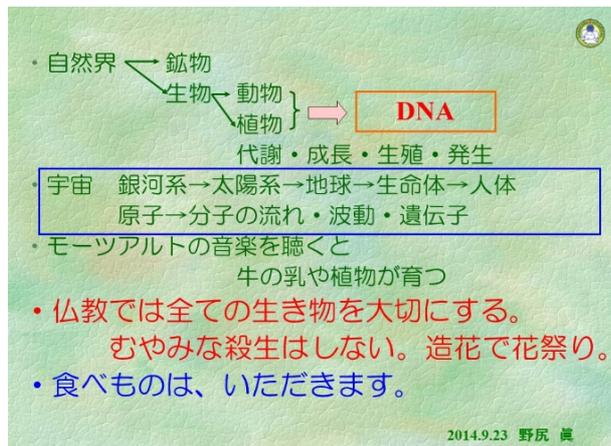
「私たちが心を落ち着かせ、時に研ぎ澄まし、内なる生活、生命の畏敬への感動（共鳴）から、“第3の涙”を流す。朝日に願い、夕日に感謝する生活がいかに豊かであることか。音に表現すれば音楽、絵に描けば絵画、植物に感ずれば園芸として、人は共鳴して表現する。そしてそこに、人は心のやすらぎ・癒やしを覚える。

生物は命のリレー、人類社会は世代のリレー。互いに思いやる心” 恕”・命を大切に作る生き方、生命の畏敬のために宇宙科学思想に目覚め、植物を活用する園芸福祉・医療に応用する園芸療法を更に探求し、その実践と普及に努めていきたいものです。」

②2012.10.20～21 第5回日本園芸療法学会 in 岐阜を開催、大会長を努めた

2日で延べ432人の出席の下、基調講演は名古屋大学福井康雄教授による基調講演『宇宙100の謎』、教育講演①として、広島国際大学教授・特定非営利活動法人日本園芸福祉普及協会理事長の吉長成恭教授より『園芸療法・園芸福祉学の研究方法論』の講演があり、園芸療法における科学的なアプローチやリハビリテーション効果の科学的根拠について分かりやすく解説していただいた。口述講演18題、ポスター発表6題とシンポジウム『日本と世界の園芸療法』は東京農業大学浅野房世教授が座長で、熱く園芸療法の効能を討議した。“自然からの健康と幸福”園芸療法における運動強度(メッツ)や筋肉のトレーニングといった科学的な評価、韓国の園芸療法士の認定制度なども話題に上った。

教育講演②は、特定非営利活動法人日本園芸療法研修会代表理事澤田みどり先生より『日本の園芸療法の実践者が芽吹き、根を張り、実になるように』を拝聴、それぞれ園芸療法の真髄を学際的にお教えいただいた。



3. 日本園芸療法学会設立への関わり

平成20年12月日本園芸療法学会を設立する理事会が開かれ、医師・OT・PT・福祉関係者、農業大学関係、園芸実践者・団体園芸好きの人々の多職種連携で、議論が取り交わされた。

私は ①日本 ②園芸 ③療法のキーワードを大切にしていきたいと考え、その旨発言しました。四季のある国の日本に・植物を取り入れた・治療体系が必要である。そして療法には3原則があり、

- 1) P計画: 問題点の抽出⇒ゴールの設定⇒プログラム
- 2) D実行: 専門知識・技術を有する人
- 3) C評価・A改善: 結果を出す・評価を受ける、改善

これらを大切に、客観性・再現性のある科学的エビデンスを集積する、そのためには症例報告を大切に国際的学際共通評価に耐えられる学会にする。

公文康先生が理事長に就任され、理事長より医系理事として副理事長を賜って今日に至っている。10年を迎えた今日、当時を振り返りながら公文先生の理想をさらに継承していく必要を痛感している。

4. 園芸療法の1つの考え方

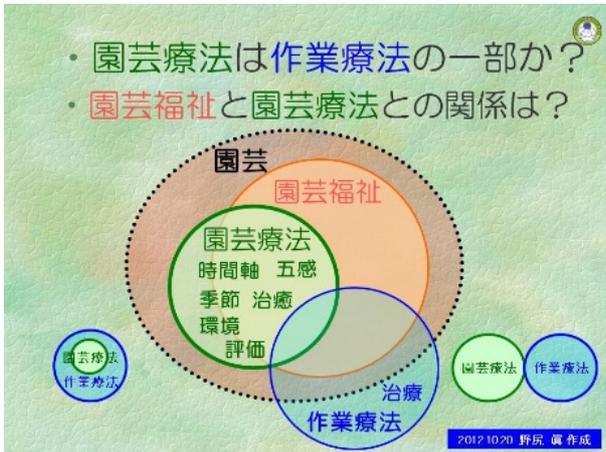
春夏秋冬・四季のある日本において花や緑の植物を医療現場の治療に役立てる、園芸療法は五感を大切に時間軸・季節・治療・環境・評価をすすめる。単なる作業療法とは異なる。

臨床現場で園芸療法を導入してみて、園芸療法・作業療法・園芸福祉の関係を図のように考えている。(図3)

園芸療法の効果は、身体・精神・社会・環境の多岐にわたり医療や福祉の現場にとどまらず、家庭や社会にも良い影響を与える。とりわけ医療の現場では植物を活かしての「癒し」の効果が得られる。

園芸療法の対象者と活動内容はデイケア・療養病床で週1回集団療法5人以上や個別療法で対応してきた。特に医療応用上は評価(アセスメント)が大切であり、治療としての活用には更なる研鑽が必要となる。

人体は小宇宙であり、動物も植物もDNAから創られており、人体も地球も銀河の塵から構成され、悠久の宇宙に繋がっている。一方、物質の分子・原子や個体にはリズムがあり、細胞は分子の流れ・波動の中で脈々と生存している。身体や心の動きを作り、家庭や社会的活動に勤しんでいる。そして、人生そのものもリズムがあり、宇宙の流れの中にある。



園芸療法の効果

(2005.6.野尻)

健康・元気を創る

- ①身体、体のリラクゼーション・・・残存能力の活用
- ②精神、心のビタミン・・・・・・・・自立性・継続性
- ③社会、地域のサークル・・・・・・・・ユニバーサルサエティ
- ④環境、自然のテキスト・・・・・・・・サイエンスマインド

表情が輝く

＜身体＞ 評価（アセスメント）

- ・寝たきり度
- ・ Barthel Index (ADL)
- ・ Berg Balance Scale

＜精神＞

- ・ 日常生活自立度判定基準
- ・ Mental Status Questionnaire (精神状態)
- ・ Philadelphia Geriatric Center Morale Scale (GOL)
- ・ Vitality Index (意欲)
- ・ 閉じこもり度
- ・ 老人用うつスケール
- ・ フェーススケール

＜具体的総合＞

- ・ AHTAS (淡路式園芸療法評価)
- ・ オリジナルスケール (白川病院式園芸療法評価)

園芸療法プログラム

- ・平成12年10月より：
療養病床・デイケアにて園芸療法プログラムを開始。
- ・平成13年5月：
病院北東にハーブ庭園「薫風」

『療養型病床』

- *集団療法：5～8名
- *午前10時30分～11時30分
- *屋外ハーブ庭園
- *病棟ホール

『デイケア』

- *集団療法：20～25名
- *午後1時30分～2時45分
- *デイケアルーム

園芸療法の対象者と活動内容

- ①身体的障害者：脳疾患（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）
 ◇身体後遺症（片マヒ、不全マヒ）
- ②精神的障害者：認知症（脳血管型、アルツハイマー）
 ◇中核症状のみ（記憶障害、失認、失行、計算力・記憶力、集中力低下・意欲低下）→**集団療法5～25人**
 ◇周辺症状あり（せん妄、うつ、幻覚、妄想、不眠、不安、徘徊）→**個別療法**

【野外】 週2回1日1時間、天気の良い日の4月～10月
 デイケアからハーブ園まで200mを車椅子、歩行で屋外へ土作り、播種、草取り、散水、収穫

【屋内】 週1回1日1時間 [病棟ホール：AM10:30～11:30 集団5～8人
 デイケア：PM 1:45～2:45 集団20～25人
 寄せ植え、乾燥ハーブ作り、ポプリ、クリスマスリース人形作り、押し花]

引用文献

- 「日本における園芸療法の実際」グリーン情報 編 P78-83：岐阜県・医療法人白水会 白川病院における園芸療法のすすめ；理事長・院長 野尻眞 2002. 11.；(株)グリーン情報発行
- 「BISE」No. 56 2008. 10（秋号）；P148-152. 時代が求める園芸療法：ベネッセコーポレーション